

「杜の都環境プラン」 定量目標の進捗状況  
(令和3年度実績) について

# 目次

● 杜の都環境プランー環境都市像と施策体系ー	P.3
● 定量目標の進捗状況（令和3年度実績）について	
脱炭素都市づくり	P.4
①温室効果ガス排出量	
自然共生都市づくり	P.5
②みどりの総量	
③猛禽類の生息環境	
④身近な生きものの認識度	
資源循環都市づくり	P.7
⑤ごみの総量	
⑥ごみの最終処分量	
⑦1人1日当たりの家庭ごみ排出量	
⑧家庭ごみにおける資源物の割合	
快適環境都市づくり	P.11
⑨環境基準の達成状況	
⑩環境に関する満足度	
行動する人づくり	P.13
⑪日常生活における環境配慮行動	

# 杜の都環境プランー環境都市像と施策体系ー

【環境都市像】 杜の恵みを活かした、持続可能なまち

「全ての主体が環境のことを考え、行動するまち」を目指します

「『杜の都』の資源が活用され、循環するまち」を目指します

「環境への取り組みが新たな価値を生み、成長を促すまち」を目指します



【分野別の環境施策】

脱炭素都市づくり

自然共生都市づくり

資源循環都市づくり

快適環境都市づくり

行動する人づくり

**重**【重点的な取り組み】

輝く！  
グリーン&クリーン都市プロジェクト

つながる！  
エネルギー循環プロジェクト

広がる！  
エコアクションプロジェクト

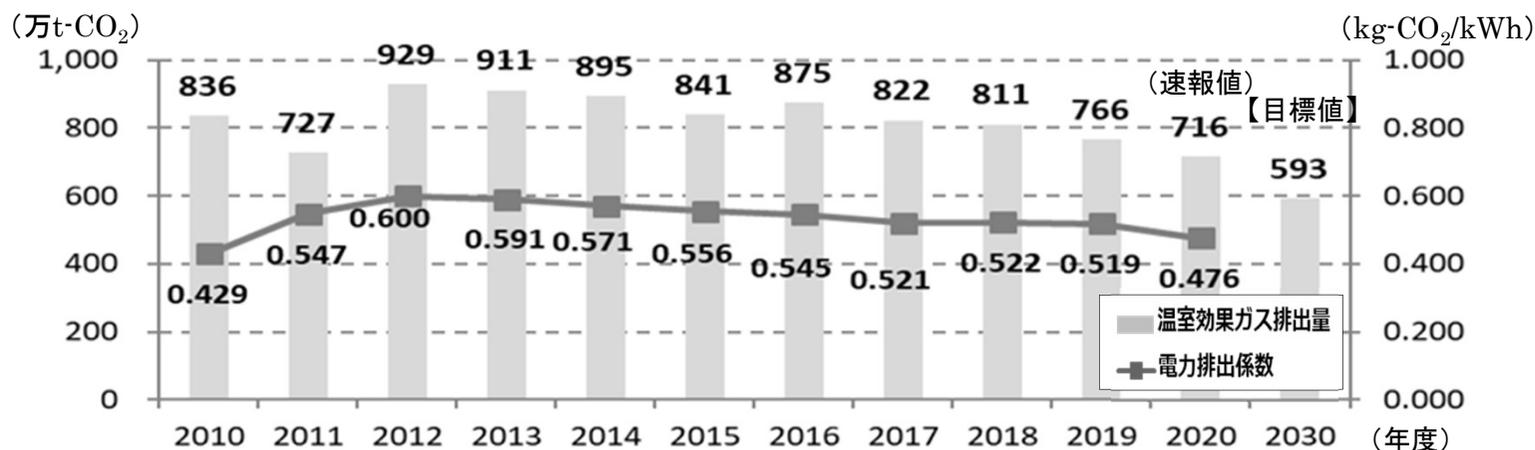
# 脱炭素都市づくり

## ① 温室効果ガス排出量

定量目標	目標値・基準値	実績（毎年度把握）
（中期目標） 2030年度における排出量を2013年度比で35%以上削減する	35%以上削減 （2030年度）	21.4%削減 （2020年度<速報値>）
（長期目標） 2050年排出量実質ゼロを目指す	※森林等による吸収量 を含む	

・2020年度の温室効果ガス排出量（速報値）は716万t（前年度比▲6.5%）となり、基準年度である2013年度と比較して21.4%減少している。電力排出係数についても前年度から減少しており、基準年度以降減少傾向にある。

・2021年度は、事業者と市が協働して排出削減に取り組む「温室効果ガス削減アクションプログラム」を推進するとともに、「省エネ家電買い替えキャンペーン」などにより、家庭からの排出削減に取り組んだ。



# 自然共生都市づくり

## ② みどりの総量

定量目標	目標値・基準値	実績
みどりの総量（緑被率）について、現在の水準を維持・向上させる	78.4% (2019年度)	-

- ・市域全域における緑被率について、次回調査は2024年度の実施を予定している。
- ・2021年度は、計画期間の満了に伴い、「仙台しみどりの基本計画 2021-2030」を新たに策定するとともに、環境影響評価制度をはじめ、関係法令を適正に適用し、自然環境の保全に努めた。

## ③ 猛禽類の生息環境

定量目標	目標値・基準値	実績
生態系の頂点に位置し、良好な里地里山環境の指標となる猛禽類（オオタカ・サシバ）の生息環境を維持・向上させる	オオタカの適地： 2,632.8ha サシバの適地：634.1ha (2020年度)	-

- ・猛禽類の生息環境について、次回調査は2025年度の調査実施を予定している。
- ・良好な里地里山環境の維持・向上を図るため、自然環境の保全や、緑化推進に向けて取り組んでいる。

# 自然共生都市づくり

## ④ 身近な生きものの認識度

定量目標	目標値・基準値	実績
身近な生きもの（9種）について、全ての種における市民の認識度を現在よりも向上させる	前回調査結果 （2019年度）	-

- ・ 2019年度の生きもの認識度調査の結果は、下表のとおりであり、次回は2024年度の実施を予定している。
- ・ 2021年度は、市民の身近な生きものへの関心を深めるため、本市に関わりの深い生き物の啓発事業として、市の鳥カッコウなど夏の生き物観察会や、秋の虫の観察会などのほか、生きものの動画配信やパネル展示などを行った。

### 前回調査結果（2019年度）

身近な 生きもの	ツバメ	カッコウ	モンシロチ ヨウの仲間	アゲハチヨ ウの仲間	セミ	ホタル	トンボ	カブト・ クワガタ	ハヤシノ ウマオイ
認識度※(%)	75.2	28.0	77.5	59.9	85.8	15.1	88.7	34.8	40.3

※身近な生きものについて、過去1年間に見た・鳴き声を聞いたと回答する人の割合

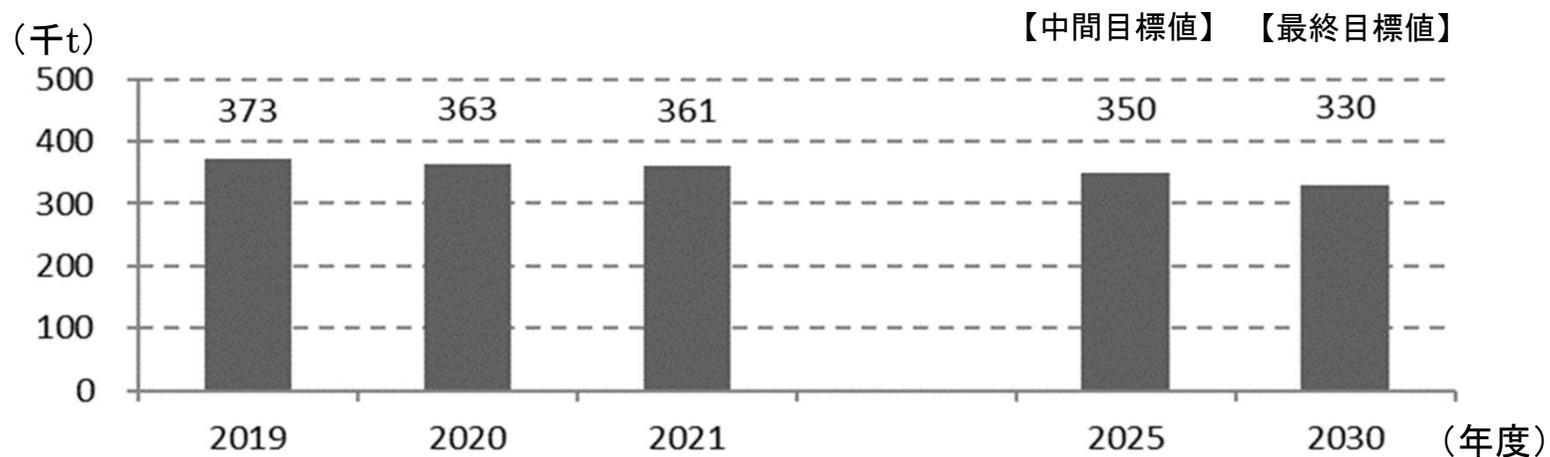
# 資源循環都市づくり

## ⑤ ごみの総量

定量目標	目標値・基準値	実績（毎年度把握）
2030年度に330,000t以下にする	330,000t以下 (2030年度)	361,199t (2021年度)

・新型コロナウイルス感染症の影響により、事業ごみ量が大きく減少した状況が続いているため、2021年度のごみの総量は361,199 t（前年度比▲0.6%）となった。

・2021年度は、製品プラスチック一括回収リサイクルの実証事業や、事業者との連携による使い捨てプラスチック削減キャンペーン、食品ロス削減を図るフードドライブの実施など、ごみ減量・リサイクルの取り組みを進めた。

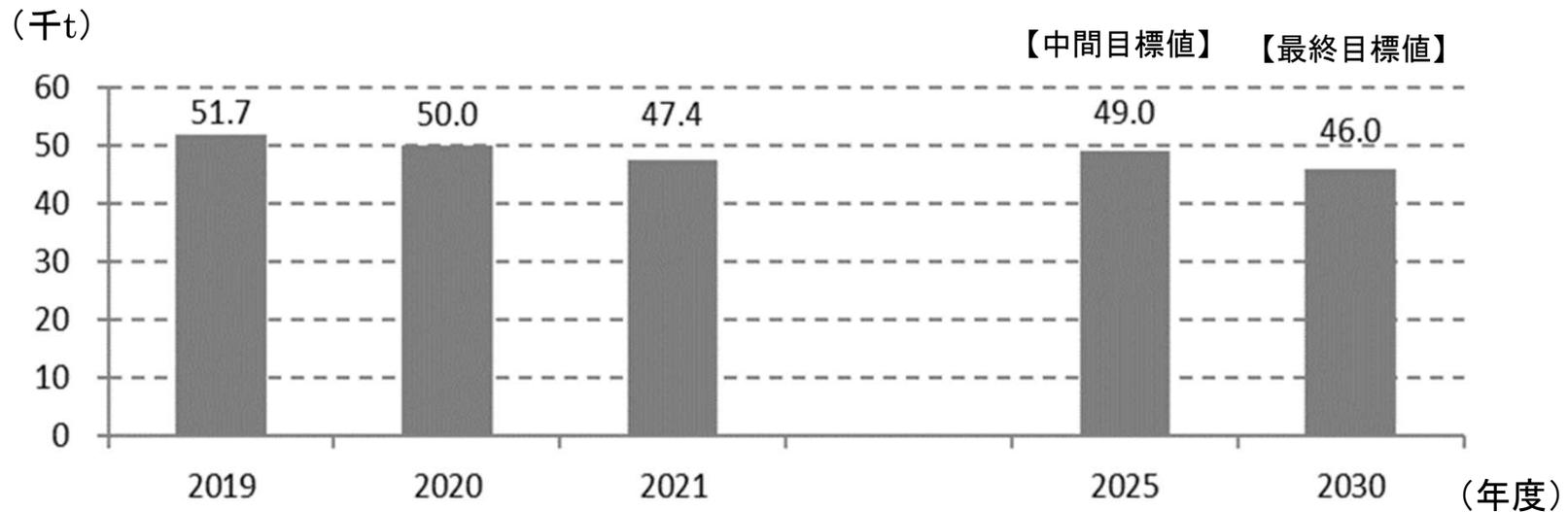


# 資源循環都市づくり

## ⑥ ごみの最終処分量

定量目標	目標値・基準値	実績（毎年度把握）
2030年度に46,000t以下にする	46,000t以下 (2030年度)	47,379t (2021年度)

・2021年度のごみの最終処分量は47,379 t（前年度比▲5.2%）となった。家庭ごみ等の燃やすごみの量が減ったことにより、前年度に比べて減少している。

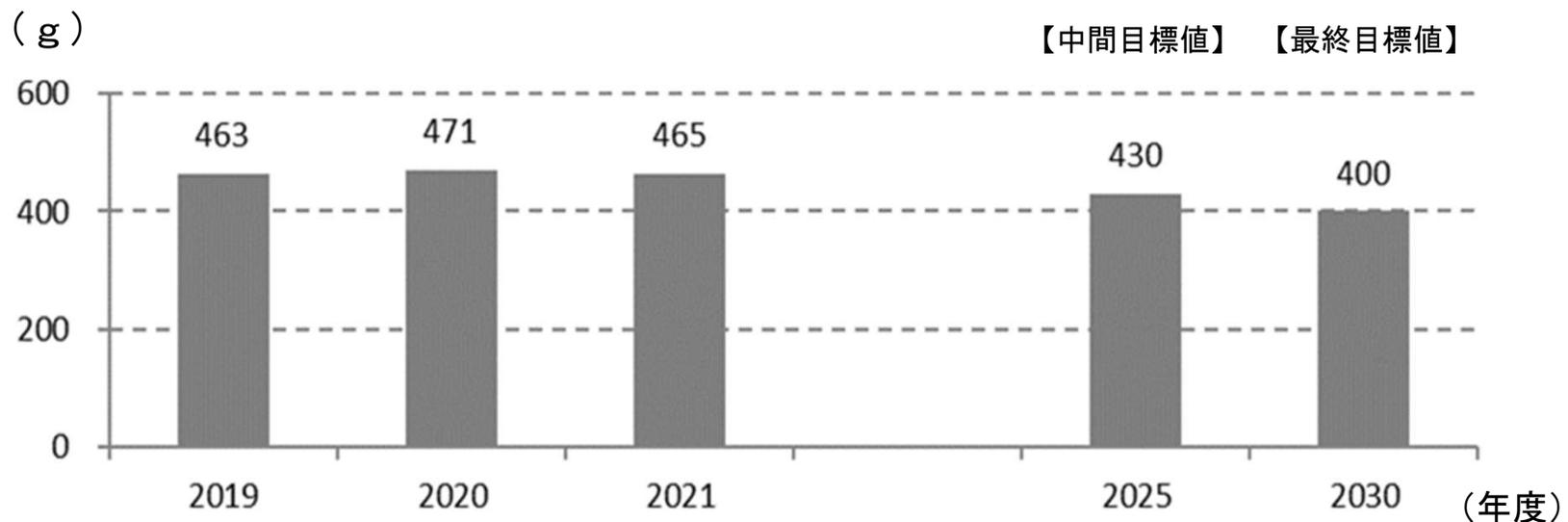


# 資源循環都市づくり

## ⑦ 1人1日当たりの家庭ごみ排出量

定量目標	目標値・基準値	実績（毎年度把握）
2030年度に400g以下にする	400g以下 (2030年度)	465g (2021年度)

- ・ 2021年度の1人1日当たりの家庭ごみ排出量は465g（前年度▲1.3%）となった。
- ・ 2025年度の間目標（430g）に向け、一層のごみ減量・リサイクル推進が求められる。

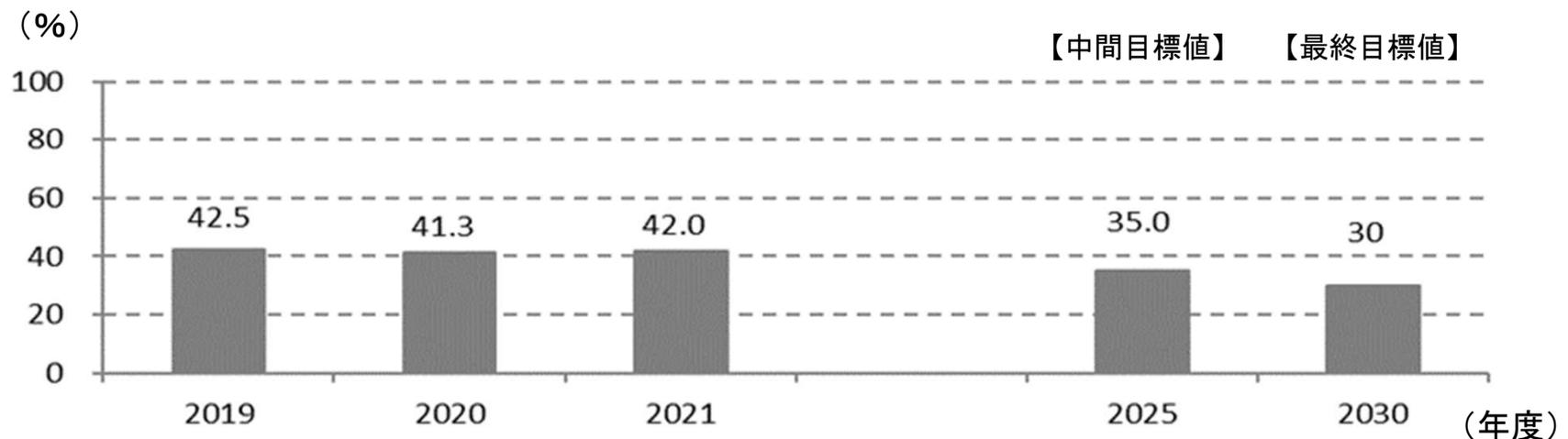


# 資源循環都市づくり

## ⑧ 家庭ごみにおける資源物の割合

定量目標	目標値・基準値	実績（毎年度把握）
2030年度に30%以下にする	30%以下 (2030年度)	42.0% (2021年度)

- ・ 2021年度の家庭ごみに占める資源物の割合は42.0%（前年度比+0.7ポイント）となった。
- ・ 2025年度の間目標（35.0%）の達成に向け、さらなる分別に向けた取り組みが必要である。



※⑤～⑧のグラフにおける中間目標については、「仙台市一般廃棄物処理基本計画」において設定している

## ⑨ 環境基準の達成状況

定量目標	目標値・基準値	実績（毎年度把握）
大気、水、土壌及び騒音に関する環境基準（二酸化窒素についてはゾーン下限値）を達成する	環境基準の達成	大気汚染・水質汚濁・騒音に係る基準について 一部非達成 (2021年度)

- ・大気環境については、光化学オキシダントを除き、市内19か所全ての測定局で環境基準を達成しており、おおむね良好な状態に保たれている。

- ・水環境については、全体として年々改善されている傾向にあるが、湖沼については、COD（化学的酸素要求量）や全磷、一部海域についてはCODの環境基準が達成されていない箇所があり、引き続き家庭や事業場における汚濁物質の削減の取り組みとともに、環境監視の必要がある。

- ・騒音については、自動車及び新幹線鉄道に関しては基準を達成していない箇所があり、引き続き、関係機関等による騒音低減対策等に取り組む必要がある。

# 快適環境都市づくり

## ⑩ 環境に関する満足度

定量目標	目標値・基準値	実績
市民の「環境に関する満足度」(8項目)について、全ての項目における満足度を現在よりも向上させる	前回調査結果 (2018年度)	-

・2018年度における市民の「環境に関する満足度」については、下表のとおりであり、次回は2024年度の調査実施を予定している。

### 前回調査結果 (2018年度)

項目	満足度※(%)	項目	満足度※(%)
1.空気のきれいさ	79.6	5.自然の豊かさ	77.7
2.まちの静けさ	73.1	6.生きものと触れ合う機会の多さ	31.7
3.川や水辺のきれいさ	59.8	7.まちの清潔さ・ごみの少なさ	55.4
4.街路樹や公園などの身近な緑の多さ	77.0	8.まちの景観の美しさ	68.0

※各項目について「満足している」または「やや満足している」と回答する人の割合

# 行動する人づくり

## ⑪ 日常生活における環境配慮行動

定量目標	目標値・基準値	実績
日常生活における市民の環境配慮行動（25項目）について、全ての項目における実践割合を現在よりも向上させる	前回調査結果（2018年度）	-

・2018年度の調査での「日常生活における環境配慮行動」については、次表のとおりであり、次回は2024年度の調査実施を予定している

・2021年度は、市民協働により総合的な環境教育・学習を推進する「杜の都の市民環境教育・学習推進会議（FEEL Sendai）」の取り組みや、「せんだい環境学習館 たまきさんサロン」における講座等を開催した。また、「せんだい環境Webサイトたまきさん」のリニューアルによる情報発信の強化などに取り組んだ。

# 行動する人づくり

## ⑪ 日常生活における環境配慮行動

### 前回調査結果（2018年度）

項目	実践割合※(%)	項目	実践割合※(%)
1.電気や水、ガスなどの節約を心がける	90.1	14.小型家電は分別して回収ボックスに出す	67.5
2.省エネ製品などを選んで購入する	76.6	15.マイバッグ等を持参し、レジ袋を断る	91.2
3.できるだけ自家用車の利用を控える	48.6	16.コンビニ等で割りばし等をもらわない	69.2
4.エコドライブを心がける	58.9	17.リサイクルショップ等を活用して、ものを再利用する	36.1
5.宅配便は再配達とならないよう気をつける	79.8	18.ウェブサイト等を活用して、ものを再利用する	16.6
6.車を買う際、環境にやさしいものを選ぶ	28.2	19.庭やベランダ等で、木や花、野菜を育てる	60.7
7.自宅に太陽光発電設備等を設置する	7.4	20.公園や川、海や森などで自然に親しむ	55.2
8.自宅の断熱性を高くする	36.6	21.地元産や旬の食材を選んで買う	77.2
9.再エネの比率が高い電力会社から電気を購入する	6.3	22.エコラベルがついた商品などを選んで購入する	53.9
10.生ごみは十分に水切りをする	90.7	23.ごみのポイ捨てをしない	92.5
11.食品ロス削減に努める	90.4	24.環境に関する講座やイベントに参加する	10.8
12.紙類は分別して紙類定期回収等に出す	92.9	25.地域の清掃や資源回収活動など、環境に関する活動に参加する	47.6
13.プラスチック製容器包装や缶・びん等は分別して収集に出す	97.4		

※各項目について「常にしている」または「できるだけしている」と回答する人の割合